



「軍事学／地政学」学習法

企業経営漫談士 岡野実空

我がラスト(50)スパートも、残るは8回。ここまで太平洋戦争を中心に考察してきた「軍事学/地政学」の最終回は、その学習法。このシリーズの「はじめに」に書いたように、それらは「一般教養」の欠くべからざる領域であり、今後も私たちが補強、更新し続けなければならないからです。

その1:「軍事学」の自学

社会人が「軍事学」の常識を点検し、足りない基礎部分を習得するのに最適な図書は、橋爪大三郎著『戦争の社会学』(光文社新書)。きりが無いという理由で参考文献が少ないのは玉に瑕ですが、それを基に強化したい領域へ進むことができます。

もし「戦略論」に向かうなら、野中郁次郎著『戦略論の名著』(中公新書)へ。そして次は、そこに紹介されている12冊の原著を読むこととなります。

また「組織論」なら、同じく野中先生の『アメリカ海兵隊』(中公新書)へ。そこには、激動の時代に相応しい組織や行動のヒントが満載です。

さらにその両方を大きく変えてきた「科学」や「技術」の常識学習も必須ですが、各々の理解が増し、それらの連関が見え始めたら、いよいよ「マネジメント」への適用を考える時機到来です。

その2:「地政学」の自習

この分野に関し、すでにご紹介したのは、「影のCIA」ジョージ・フリードマン。これまでの実績に加え、ウクライナでまた氏の予測通りのことが起こり、改めてその慧眼に恐れ入るばかりです。

世界への視野を広げるために、私たちはまず「地理」を学びますが、それに深みを加えるのは各地の「歴史」。古代文明はもちろんのこと、中世から近代に至る欧州・中東・アジアなどの過去を知らない限り、「地政学」に踏み込むことはできません。

また「地政学」といえば、「ローマ帝国」や「大英帝国」の話題になりがちですが、私がお薦めするのは「ヴェネツィア」研究。それも故高坂正堯氏の濃縮された論説より、塩野七生女史の『海の都の物語』にある、政治・経済・文化から庶民の生活に至る広範な千年史からの学びです。その事例集から、どれくらい有効な「教訓」を抽出できるか否か。それが我が国の将来ばかりでなく、皆さんが所属する組織の盛衰を決めることになると確信します。

☞参照 『三々な経営』『続・三々な経営』

E-33 先達の遺訓③大口右三氏

Z-10～11「セミナー」活用法・その1～2

Z-19 私の推薦図書④地球・世界

Z-31 三字熟語①三友

Z-39 三字熟語⑨軍官民

その3: 自学自習と「学友」

このシリーズの最後は、コロナ禍の中の我が体験から。それは長年つき合いのある、某流通大手企業のK部長から届いた、『暁の宇品』(堀川恵子著、講談社)読みましたか?というショートメールがきっかけ。押っ取り刀で近くの図書館に駆けつけたところ、すでに大量の予約があり、やむを得ず、古稀に誓った禁を破って即日購読する破目に。しかし一旦読み始めたら、もうどうにも止まらない。

その感想は、陸軍の「兵站」というブラックボックスに焦点を当て、太平洋戦争における「マネジメント」の実態を詳らかにした出色のドキュメント。これを読まずして太平洋戦争は語れない!

さて以上の起点は、かつて幹部育成研修で出会い、その後お手伝いしていた彼主宰の研究会で、「戦争」や「物流」に関する「常識」の欠如を警告したこと。そして「学友」としての貴重な一報は、彼がその学習を継続している証であるだけでなく、こちらの知識の補強と更新を促すものでした。

前世紀半ば、ようやく「世界大戦」を終わらせながら、その後も形を変え、絶えず内容を更新し続ける「軍事学」。その一方、その多大な犠牲と悲劇を伴いつつ民族の「不変性」を証明し続ける「地政学」。私たちが人間である限り、その双方の学習が不要になる日は来そうもありません。

そして上記の話には、まだ続きが。今週久しぶりに対面で情報交換した、中学以来の友人から翌日届いたメールは、『暁の宇品』読んだ?

2022年11月21日 実空